第1回 SVGの基礎

演習の課題については、この中に直接記入してもよい。実行結果が伴う場合には、印刷したもの を添えること。

課題 1 (演習の準備) 予習ビデオ1を見て次の問に答えよ。

- 1. 使用するテキストエディタ名とそのエディタで BOM なしの UTF-8 の文字コードで保存する方法について報告する。
- 2. テキストファイルを BOM ありとなしで保存したときのファイルサイズの違いがあるか調べて報告しなさい。
- 3. BOMとは何か。また、なぜ必要なのかを調査しなさい。

4. SVG ファイルが BOM なしで保存しなければいけない理由について答えなさい

課題 2 (簡単な SVG ファイルの作成) 予習ビデオ 2 を見て次の問いに答えよ。

- 1. SVG ファイルを表示したブラウザについて報告する。
- 2. 直線の属性をまとめる。1年で学んだ Processing の仕様と比較すること (別紙で解答すること)
- 3. Fick の錯視を 90° 回転させた図形でも同様の錯視が起こることを確認する。
- 4. 直線をいくつか組み合わせて図形を作成する。色や幅を変えること。直線の代わりに円や長方形を用いてもよい。

課題 3 (グラデーション) 予習ビデオ3を見て次の問いに答えよ

- 1. 線形グラデーションで長方形や円を塗りつぶすこと。gradientUnits も変えて違いを説明すること。配布資料 29 ページのリスト 2.11 を用いてもよい。
- 2. 放射グラデーションで長方形や円を塗りつぶす。属性 fx や fy も変えたものをいくつか作成 すること

情報メディア専門ユニット I(演習)

第1回(4/18)ノートの内容

この回の予習の目的は次のとおりである。

- 簡単な SVG ファイルをテキストエディタで作成し、ブラウザで表示できる
- 直線、長方形、円を SVG の要素で表示できる
- グラデーションの基本を理解する

これらの点をまとめて、作成した SVG による画像とリストとその解説を付ける。演習内での議論は手書きでよい。

評価 項目	優れている	標準的	改良の余地あり
課題 1 (20%)	□使用したテキストエディタ の名称、バージョンがある。	□使用したテキストエディタ の名称がある。	□使用したテキストエディタ の名称がない。
	□ファイルの保存形式の注意 が書いてある。	□ファイルの保存形式の説明 に図がない。	□ファイルの保存形式に言及 がない。
	□BOM が存在する理由が正 しく書かれている。	□BOM が存在する理由が一 部不正確である。	□BOM が存在する理由が不 正確である。
	□BOM つきとなしの場合で のファイルの大きさの差と その説明がある。	□BOM つきとなしの場合で のファイルの大きさの報告 がある。	□BOM つきとなしの場合で のファイルの大きさの差の 説明がない。
	\square SV G ファイルが BOM なしでない理由が正しく書かれている。	\square SV G ファイルが BOM なしでない理由が一部不正確である。	□SVG ファイルが BOM な しでない理由がないか他間 違っている。
課題 2 (30%)	□使用したブラウザの名称、 バージョンがある。	□使用したブラウザの名称が ある。	□使用したブラウザの名称が
	□直線の属性のまとめが十分 にあり、Processing との比 較も十分である。	□直線の属性のまとめが十分 にあるが、Processing との 比較がないか不十分である。	ない。 □直線の属性のまとめが十分 にないか全くない。
	□Fick の錯視で回転させたも のや線の幅を変えたものが あり、それらに考察がある。	□ Fick の錯視で回転させたも のや線の幅を変えたものが ないか、それらの考察が不 十分である。	□Processing との比較がない。 □Fick の錯視で回転させたも
	□直線や円、長方形を組み合 わせた充分な量の図形を作 成し、それに関する考察が ある。	一方である。 □直線や円、長方形を組み合 わせた充分な量の図形を作 成し、それに関する考察が 不十分である。	のや線の幅を変えたものがない。 □直線や円、長方形を組み合わせた充分な量の図形ない。

次のページに続きがあります

評価 項目	優れている	標準的	改良の余地あり
課題 3 (30%)	□線形グラデーションでいろ いろな図形を塗りつぶした 例が十分にあり、それらの 考察も適切である。	□線形グラデーションでいろ いろな図形を塗りつぶした 例があり、それらの考察も ある。	□線形グラデーションでいろ いろな図形を塗りつぶした 例がないか、それらの考察 がないか不十分である。
	□線 形 グ ラ デ ー ション の gradientUnits の違いに ついて、例を示して、正し い考察をしている。	□線 形 グ ラ デ ー ション の gradientUnits の違いに ついて、例を示しいないが 正しい考察をしている。	□線 形 グ ラ デ ー ション の gradientUnits の違いに ついて、例がなく考察がな いか、不十分である。
	□放射グラデーションでいろ いろな図形を塗りつぶした 例が十分にあり、それらの 考察も適切である。	□放射グラデーションでいろ いろな図形を塗りつぶした 例があり、それらの考察も ある。	□放射グラデーションでいろ いろな図形を塗りつぶした 例がないか、それらの考察 もないか不十分である。
ノー トの 方 (20%	□プログラムのリスト、実行 結果がすべる。 □画面のキャプチャが図形を 表明である。 □画面のキャプチャが図形を 表でなって、一大分りのる。 □予習の内容が各項でいる。 □プログラウザ全体になって 項いいる。 □プログラックであられている。 □プログログにあるような配慮がある。 □グループ内での議論がある。 □グループ内での、経過と解決が明確になっている。	□プログラムのリスト、実行結果が一部ないか、考察が一部不十分である。 □画面のキャプチャが図形を表示するよりも大きすぎるか、ブラウザ全体になっていない。 □予習の内容の項目が一部ない。 □ノートの余白があまりない。 □グループ内での議論がまとめられているが、経過と解決法が明確になっていない。	□プログラムのリスト、実行 結果が少なすぎる。 □考察の量が不十分である。 □画面のキャプチャがデスクトップ全体になっているか、ブラウザで実行したかがわからない。 □予習の要点のまとめが少なすぎる。 □ノートに余白が全くないか、ほとんどない。 □グループ内での議論がまとめられていなくて、経過と解決法が明確になってない。

情報メディア専門ユニット I(演習) 第1回(4/18) プレゼンテーション

この回の予習に基づいてグループ内で議論したことや工夫した点について報告する。

グループメンバー学籍番号

評価	F1	Int Alla I.I.	-11 A 11. 1- 1-
項目	優れている	標準的	改良の余地あり
発表 技法 (20%)	□はっきりと丁寧に説明していた。 □発表の際に聴衆の反応を確かめていた。 □間の取り方がよかった。 □決められた時間に近い範囲で行った。 □機材の設定や準備がすぐできていた。	□説明が途切れることが 2, 3 か所あった。 □声が少し大きすぎたり小さすぎた。 □発表の際に聴衆の方をあまり見ていないか反応を確かめていなかった。 □決められた発表時間を少し外れた。 □機材の設定や準備に少し時間がかかった。	□声が小さすぎて聞き取れなかった。 □聴衆のほうを全く見ない、反応を無視して行った。 □間がない発表であった。 □発表時間が極端に短い、または長すぎた。 □手元の資料や PC 画面を見て発表していた。 □機材の取り扱いや発表の準備がほとんどできていなかった。
発表 構成 (30%)	□初めに発表内容に関する概要があった。 □発表内容の順序に必然性があった □各構成の部分のバランスが良かった。 □図や表を使い簡潔にまとめられていた。 □引用は適切である。	□文字だけの発表で、概略が 少しつかみづらかった。 □図の内容が少し見づらかった。 □項目の内容の分量にばらつ きが少しあった。 □スライドごとに情報の詳し さが一部異なりすぎていた。 □ページの分量が発表時間に 対して少し足りない、また は多すぎた。	□ほとんどのスライドで情報 量が少なかった。 □一つのスライドに文字を詰めすぎていた。 □図が大きすぎたまたは小さすぎた。 □スライドごとに情報の詳しさが異なりすぎていた。 □スライドの内容が情報ごとにまとまっていなかった。
発表 内容 (50%)	□内容は適切であった。 □図の使い方がよかった。 □内容が自分の言葉で述べられていた。 □それぞれの項目の関連性とバランスがよかった。 □発表したいことが十分に説明されていた。 □自分の意見が明確であった。	□内容のごく一部に説明不足なところがあった。 □図が少なくて説明が少しわかりずらかった。 □内容に関して他からの引用が少し多かった。 □それぞれの項目の関連性に少し不十分なところがあった。 □発表内容の必要性の説明が少し足りなかった。	□内容が少なすぎる。 □図を使用していないのでわかりずらい。 □スライドの記述と発言内容に差がありすぎる。 □内容が多すぎて散漫である。 □内容が引用ばかりで自分でまとめた形跡がなかった。 □内容の説明が不十分であった。